

# 「共に生きる力を育てるエイズ学習」その1

—HIV感染者の生き方に学ぼう—

○自尊感情    ○知識理解    ○共生

小学校6年

## I 題材設定の趣旨

社会を支えているたくさんの若者がエイズに感染し、現在HIV感染者は世界的に増加の一途をたどっている。日本でも、多くの若者がエイズに感染しているが、エイズへの差別や偏見を恐れ、感染しても人に告げることができにくい現状にある。

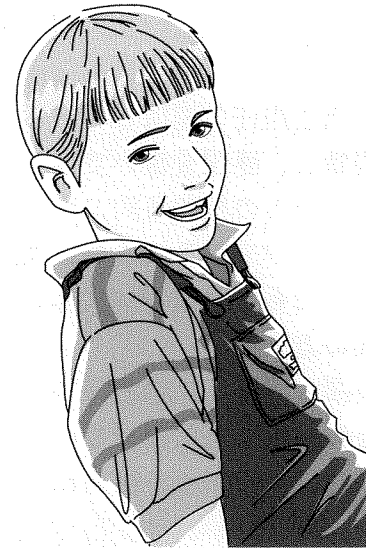
このような現状を知らない子どもたちに、HIV感染者である同年代の子どもが、偏見や差別、病気の恐怖とたたかいながらも、HIVと共に生き抜こうとしている姿や、周りの人々と一緒に、健常児と同じように生活したいと願う姿、その生活を得るための様々な生き方を学ぶことを通して、小学校6年生では、HIV感染者の思いを知り、一人の人間としての生き方に共感し、共に生きる友達になっていこうという気持ちを育てる。

さらに中学生では、HIV感染者をとりまく友人や家族の方々の温かくさわやかな触れ合いの姿に触れ、共に生きることの意味と私たち自身がどうしていったらよいかをより深く考え合うことを通して、互いに認め合い尊重し合って生きる力を育てる。

## II 学習の実際

小学6年生

「あけぼの  
(小学生高学年向け)」  
より



### 1 ねらい

- ・ 明るく元気に生活している  
ジョナサンさんの姿に共感し、一緒に生活できることを考える。
- ・ エイズの正しい知識を周囲の人に伝えていくことの大切さに気付く。
- ・ 差別や偏見を受けているHIV感染者の苦悩に心を寄せ、差別や偏見にどう対していくか自分なりの考えを持つ。
- ・ エイズとはどのような病気なのか、免疫システムに関すること、感染経路等について科学的に学ぶことを通して、日常生活では感染しないことが分かる。
- ・ HIV感染者は、何よりも一緒に生活する友達を必要としていること、友達には病気への理解と共に、一人の人間としてその人自身のことを知り付き合っ欲しいと願っていることを考える。

## 2 指導計画（1年間の単元展開例）

## ※人権教育の視点で扱う題材

時	題材（教科等）	活動内容（人権教育の視点）	評価
1	① ジョナサンさんってどんな人？ （学級活動）  ※	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のいいところ、友達のいいところさがしのワークショップをする。</li> <li>明るく元気に生活をしているジョナサンさんに目を向け、まずどんな子どもなのかを考える。</li> </ul> <p>（自尊感情 共生）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HIV感染者であっても、自分たちと同じ生活が送れることに気付く。</li> </ul>
1	② なぜ名前を言えないの？ （学級活動）  ※	<ul style="list-style-type: none"> <li>HIV感染者であることを打ち明け、明るく暮らしているジョナサンさんのビデオを見る。</li> <li>日本における薬害エイズ裁判、HIV感染者に対する差別・偏見を学ぶ。</li> <li>日本の子どもたちの生活とジョナサンさんの生活との違いを考える。</li> </ul> <p>（差別に気付く力）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイズへの偏見を恐れ、感染しても人に告げることができずに悩んでいる日本の子どもたちがいることに気付く。</li> </ul>
1	③ エイズの正しい知識を持つ 体育（保健領域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな行為で感染するのかしないのかを考える。（養護教諭とのTT指導等）</li> <li>エイズとはどのような病気なのか、免疫システムに関わること、感染経路等について科学的に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エイズは日常生活で感染しないことが分かる。</li> </ul>
1	④ お互いに助け合える友達に （学級活動）  ※	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョナサンさんの周りの人々がエイズについての正しい知識を持つと共に、「普通の子と同じように生活させたい」「エイズになっても友達に変わらない」という願いを持ってかかわっている姿をビデオで学ぶ。</li> <li>HIV感染者も一人の人間として、その人自身のことを知り付き合いたいと願っていることを考える。</li> </ul> <p>（共生 差別をなくす意欲、態度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HIV感染者は、何よりも一緒に生活する友達を必要としていることが分かる。</li> </ul>

## 3 具体的な活動内容

A 題材名「ジョナサンさんってどんな人？」（4時間中第1時）

B ねらい

- ・明るく元気に生活しているジョナサンさんの姿に共感し、一緒に生活できることを考える。

C 指導上の留意点

- ・ジョナサンさんという一人の人間を理解するために必要な情報を与える。
- ・ジョナサンさんはHIV感染者でありエイズ患者ではない。まだエイズについての詳しい知識を学習していないため、子どもたちには「エイズにかかってしまった」と表現する。

## D 実践記録

時間	児童の活動	指導・支援
つかむ 20'	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のいいところ、得意なこと（好きなこと）を書き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身について考え、ワークショップ用カードに記入する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     あなたのいいところはどこ？得意なところ（好きなこと）は何？                 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰のものか当て合う。</li> <li>友達のいいところをさらに付け加えて出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>示された「いいところ」に共感する。</li> <li>自信が持てるように、児童の気持ちを高めるための言葉添えをする。</li> </ul>
ふかめる 20'	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョナサンさんの生活の様子をビデオで見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず、生き生きと活動している場面の写真を掲示し、元気に生活しているジョナサンさんの姿に着目させる。</li> <li>自分たちと変わらない暮らしをしている場面をクローズアップし、注目させる。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ジョナサンさんはどんな暮らしをしているどんな子どもだろう                 </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョナサンさんはどんな子どもかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョナサンさんがどんな子だと思ったかを聞きながら、カードに、ジョナサンさんのいいところ、得意なことを記入していく。</li> <li>どうしてそのように考えたかも併せて聞いていく。</li> </ul>
まとめる 5'	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジョナサンさんについて感じたこと、気付いたことをカードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想をカードに記入させる。</li> </ul>

### 4 評価

- 「HIV感染者だから気をつけなくてはいけないこと、できないこと」にばかり目を向けるのではなく、その人の求める暮らしや希望に目を向けることができたか。
- エイズという病気の基本的な疾病概念がとらえられ、日常生活において児童が感染することはないことが理解できたか。
- 「HIV感染者」という見方でなく、AさんBさんという一人の同じ人間同士としての助け合いや支え合いが、望まれていることに気付くことができたか。

### 5 成果と課題

#### 【成果】

- 「エイズは怖いもの」という概念を乗り越え、共生の視点に立つためには、HIV感染者の生き方から学び、生き方と併せて病気を科学的に理解していくことが必要と考えた。そのためにワークショップで自分たちについて考えることを導入とし、さらに、同年代のHIV感染者の生き方（求める暮らしや希望）に目を向けて展開したことが効果的だった。
- 人権教育では、エイズを通して「一人の人間としてHIV感染者を理解し、共に助け合っ

て生きる」という視点で、エイズに関する差別、偏見、共生を主に扱いたいと考えた。そこで、疾病概念や予防といった視点を、体育の「病気の予防」単元で扱うなど、横断的な学習を視野に入れての単元展開とした。

#### 【課題及び留意点】

- 発病すれば死に至る病気ではあるが、HIV感染症の治療薬の開発はめざましく、治療できる環境では、発病を伸ばすことが可能であること、また、感染しないためにどうするかを考え合う時間を確保したい。
- HIV感染者の生きようとする姿には、最終的には明るく、快活としたイメージが持てるような教材を用意したい。
- 児童はエイズについて断片的な知識や情報を得て、誤った概念を持っていることが多い。また、自分の身近なこととして結びつかない。この授業から、病気の人や障害のある人、高齢者など、身近に考えられる同様の素材について考えを深めていくことで、エイズもまた身近なことになっていくのではないか。



(第1時で使用)

＝少年ジョナサンさんのことと、彼を紹介する作品たち＝ジョナサンさんは1983年、アメリカのコロラド州デンバーに生まれました。しかし、わずか1.8キログラムの未熟児で生まれたため、輸血が必要でした。その血液の中にHIVウイルスがあったために感染してしまったのです。1985年に感染と診断されて以来、彼の家族は「プールに入るな」「学校もダメ」「さわるだけでもうつる」と、近所の人たちからも誤解と差別を受けました。その頃はまだエイズのこともよく知られていなかったし、教育も本も治療体制もあまりなかったからです。しかし、お母さんが学校や近所の人たちを説得し、学校に通うことができるようになりました。その後、高地のデンバーが身体によくないために祖父母の住むジェファーソンに引っ越しました。ビデオは、1992年その地を訪ねて取材したものです。ビデオでは、ジョナサンさんの生活が生き生きと捉えられています。日本の子どもたちの明るい姿と少しも変わらないジョナサンさんを見ることができます。担任の先生も、特別扱いはしません。クラスのみならず同じ一員として考えています。友達も「ケガをした時に気をつけるだけで、他の友達と同じ」に付き合っています。たとえ友達がエイズになったとしても友達に変わりない。エイズの人一人の人間として愛情や理解をうるのに値するということが、ビデオが伝えたい大切なメッセージとなっています。さらに、エイズの薬は人々の愛なのだということもアピールしています。